

令和５年度自己評価表（中間）

鳥取県立米子白鳳高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	多様な背景を持つ生徒に「学ぶ意欲」を育て、「優しさと感謝」の心を育み、「自分も役に立ちたい」と前向きに共生する資質と「社会的な自立を実現する」といった意欲・態度を育む。	今年度の 重点目標	1 学ぶ意欲の喚起・育成 2 心豊かに他と共生する態度の育成 3 「ふるさと」とつながる心の育成 4 社会的な自立に向けた支援
-------------------	--	--------------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 （ ９ ） 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 学ぶ意欲の喚起・育成	○授業のユニバーサルデザイン化	○「分かる」を大切にしながら主体的に授業に取り組む態度を育てることが必要である。	○学習に集中し、意欲的に授業に参加することができる。 ○単位修得率80%以上	○全職員による生徒情報の共有 ○全ての教員によるユニバーサルデザイン研修・合理的配慮の視点を取り入れた授業の展開 ○支援が必要な生徒への個別指導	○ユニバーサルデザイン・合理的配慮についての説明を転入職員に行った。 ○支援員を配置し、個別指導を充実させている。	B	○指導方法の改善を行い、ユニバーサルデザイン・合理的配慮に基づいた授業を推進する。 ○情報共有を密に行い、個別指導を継続する。
	○ＩＣＴ活用教育の推進	○世の中のＩＣＴの普及と利便性より、情報活用能力の育成が必要である。	○各自の課題の解決に向け、主体的にＩＣＴの活用ができる。 ○ＩＣＴ機器に抵抗感のない生徒80%以上	○ＩＣＴの活用のための教員研修と環境整備 ○ＩＣＴを活用した教材の充実 ○ＩＣＴを利用した授業実践 ○NHK高校講座でのＩＣＴ活用	○Chromebook、タブレットは昨年に引き続き、多くの教員が授業等で活用している。 ○授業資料配布、アンケートなどをGoogle Classroomで行い、活用を推進している。 ○各教室にタブレット等接続ケーブルを配置し整備環境を整えた。 ○全職員対象のGoogle Classroom活用研修会を行った。	B	○ＩＣＴ機器の活用を引き続き推進し、スキルアップを図る。 ○今後も研修会を企画し、Google Classroom利用促進を図る。 ○ＩＣＴを活用しやすい環境整備を継続する。
	○生徒理解と環境整備	○多様な生徒のおかれた状況・背景を理解し、学ぶ意欲を高める必要がある。	○安心して学校生活に取り組むことができる。	○個人面談・hyper-QUの実施による生徒理解と個別支援の充実 ○SC・SSW・特別支援教育支援員・白鳳サポーターとの連携 ○通信制就学支援事業（学校内託児）の推進 ○「通級による指導」で学んだことを通常の学級で活かす校内支援体制の推進	○中学校からの引継や関係機関との情報共有、「合理的配慮」申請による支援会議やhyper-QUを実施し、生徒理解を深めた。 ○各課程会議での情報共有やSC・SSW・特別支援教育支援員・白鳳サポーター・精神科学校医と連携し、情報共有を行った。 ○「通級による指導」を計画通り実施し、生徒の満足度も高かった。	B	○共有した情報をもとに、支援方針を引き続き検討していく。 ○中学校からの引継や関係機関との情報共有、「合理的配慮」申請による支援会議やhyper-QUを活用し、個別支援をさらに充実させる。 ○「通級による指導」で学んだことを通常の学級で活かすために、教職員への周知の在り方を検討する。 ○「通級による指導」に関する調査・研究をさらに進め、通級による指導を充実させる。
2 心豊かに他と共生する態度の育成	○基本的生活習慣の確立	○挨拶、言葉遣いなど基本的生活習慣を身につける取組が必要である。 ○無断遅刻、欠席する生徒がいる。	○早寝早起き等の生活のリズム及び適切な食生活を心掛ける。 ○すすんで挨拶をし、社会人として必要な言葉遣いができる。	○遅刻・欠席の防止指導、家庭連絡の徹底 ○立ち番指導の実施 ○積極的な挨拶・声かけ ○社会人としてのマナー指導 ○健康を意識した体調管理指導の推進	○担任が家庭連絡を取り、遅刻や欠席など丁寧な指導を行っている。 ○４月と９月の２回執行部の生徒を中心に立ち番を実施した。保護者や派出所の警察官にも協力していただいた。 ○自転車登校時ヘルメット使用について、１年生はほぼ着用できているが、２年・３年は着用率が低い。	B	○遅刻や欠席の多い生徒に対し、担任・教科担当との連携を密にし、生徒の実情に合った指導を実施する。 ○ヘルメット着用について、２年・３年を中心に、粘り強く声掛けをしていく。
	○自己理解・他者理解の促進	○自己と他者の違いや多様性を受容できる人間関係育成のための環境づくりが継続的に必要である。	○生徒同士の信頼関係が醸成され、お互い尊重し合ってクラスが居心地の良い場となる。 ○学校が楽しいと感じる生徒80%以上	○生徒理解のための教員研修の実施と充実 ○エンカウンターの実施 ○性に関する指導や人権教育の充実	○エンカウンターを実施し、居心地のよいクラス的环境作り、人間関係作りを行った。 ○クラスが安心できる場所となり、中学校時に比べて登校が継続できている生徒が増えた。 ○性に関する指導や人権教育の事業、生徒理解のための教員研修を実施した。	B	○生徒間の人間関係を引き続き育成する。 ○今後もエンカウンターを実施し、安心できる居場所としてのクラス作りを行う。
	○個に応じた指導と集団の活性化	○人との関わりやコミュニケーションを特に苦手とする生徒がいる。	○自分自身を認め、自分について理解し、自らの課題に適切に対応していくことができる。 ○生徒会行事に積極的に参加した生徒の割合85%以上（定時） ○積極的に行事に参加し、アンケートにて「参加して良かった」と満足度を示す回答が90%以上（通信）	○生徒ひとりひとりの課題に応じたきめ細かい指導 ○自主性を活かした部活動の運営 ○執行部活動の充実	○情報を共有し、実態把握に努めた。場合によっては、外部機関の協力を得て指導した。 ○軟式野球部が久々に県総体に出場した。また、バドミントン部・卓球部・陸上競技部は、部員数が少ないながらも工夫しながら部活動に取り組み、全国大会に連続して出場した。 ○生徒会活動も生徒が主体的に取り組むようになり、前期は対面式・部活動紹介・スポーツフェスティバル、生徒総会、立ち番指導などを行った。 ○鳳楽祭（通信制学校祭）は参加人数が少なかったが、参加生徒は満足した。	B	○引き続き、学校内はもちろん学校外とも連携を強化していく。 ○県生連大会や生活体験発表会、白楽祭（定時制学校祭）など生徒会執行部員が活発に活動できるように支援する。
3 「ふるさと」とつながる心の育成	○体験活動とおとした社会性の育成と自己有用感の醸成	○社会的体験を積み重ね、さらに社会性を高めることが必要である。	○自らすすんで行動し自信と責任を持って活動することができる。 ○「自信がついた活動があった」と感じる生徒の割合80%以上	○定通充実事業（チャレンジものづくり体験・テーブルマナー講習・乗馬体験・校外研修・蔵書点検ボランティア）および実習を通した達成感の習得に向けた取組の推進 ○アルバイト、ボランティア活動、地域美化活動の推進	○自立に向けた活動を計画通り実施した。活動を通じて、徐々に自己の進路について考えることができるようになってきている。	B	○テーブルマナー講習会・学習発表会等自立に向けた活動を計画通り実施する。
	○地域との交流と協働	○地域との交流をおとし、地域社会や周囲の環境の良さを認めるなど関心をさらに高める必要がある。	○地域社会や環境に関心を持ち、異世代とのコミュニケーションができる。 ○園児との交流に積極的に参加した生徒の割合80%以上	○さつまいもの植付・収穫・会食を通した園児との交流 ○コミュニティ・スクールによる意見・提言の活用 ○淀江地区との交流を通したふるさとの特徴理解（銭太鼓・傘踊り体験、和傘作り、ヒガンバナの植栽活動、淀江さんこ節保存会）	○計画通り実施した。地域の人々や文化に触れることで、他者との関わりや地域のつながりを学ぶことができた。	B	○今後も地域との交流活動や貢献活動などを計画通り実施する。
	○自己表現力の育成	○自分の思いや考えをうまく相手に伝えることができないため、相手に誤解を与える、誤解してしまう生徒がいる。	○周囲の状況に配慮した発言・行動が出来る。	○協働学習の推進 ○発表する・発表を聞くときの意識・姿勢の指導 ○一斉読書を活用した読書指導の充実	○学習発表会を見据え、産業社会と人間、総合的な探究の時間において学年団を中心に指導している。 ○毎週一斉読書を実施した。	B	○日々の授業での意識・姿勢の指導が必要。
4 社会的な自立に向けた支援	○ふるさとキャリア教育の充実	○社会の変化に対応するため、適切な勤労観の育成及び進路意識を早期に向上させる必要がある。	○自分自身の適性・特徴にあった進路実現を達成することができる。 ○自分の適性、就きたい職業について考えるようになった生徒の割合70%以上	○就職・進学講演会の開催 ○個別面談や相談の実施 ○学年団・就職支援相談員と連携した進路指導 ○アルバイト・インターンシップを通した勤労観の育成	○「卒業生と語る会」を実施し、進学先での様子や就職先での様々な職種の実情を聞くことができ、アンケートでは73%が自身の適性と照らし合わせ、進路実現に向けた意識づけができたと回答。 ○進路LHRの回数を増やし、進路に関する情報を多く提供することで、自らの進路を考える機会を増やすことができた。	B	○学年団での連携は取れたが、就職支援相談員との連携、活用方法を工夫すべき。
	○「産業社会と人間」「総合的な探究・学習の時間」の充実	○社会的自立に向けて、さらに系統的な学習の確立が必要である。	○社会的自立に必要なスキルが、学年に応じて身につけている。 ○講演会・学習発表会等を通して「自分は成長した。」と肯定的に感じる生徒の割合85%以上	○系統的な学習プログラムの構築 ○学習成果発表会の実施 ○面接・着こなし講習会の実施	○計画通り実施し、体験的活動を通して、生徒の社会性が育ち、いきいきと学校生活を送れるようになってきている。	B	○今後も引き続き体験活動を通して、生徒自ら進んで行動できるよう事業を実施する。
	○関係機関との連携	○多様な生徒の特性を踏まえた支援の在り方を探るべく、関係機関との連携が必要である。	○自分が必要な進路相談および対策や準備ができ、進路実現を図ることができる。	○上級学校・事業所見学の実施 ○ハローワーク、若者サポートステーション、障害者就業・生活支援センターとの連携	○コロナ禍でも実施可能な事業所・学校見学を探し、９月に実施。 ○定時制で福祉就労に向けて、教育相談・担任と連携した。 ○通信制でハローワークの講演会を実施し、自らを見つめ直す学びの多い時間となった。	B	○必要に応じて外部との連携を密にしていく。
5 学校業務改善に向けての取組	○長時間勤務の解消	○学校行事などにより長時間勤務になる時期がある。	○月４５時間、年３６０時間を超える時間外業務がない。	○衛生委員会での時間外労働時間集計結果の周知と超勤者への声かけ ○定時退勤日・定時退勤週の実施	○月４５時間超勤勤務者は８月までなかった。 ○定時退勤の実施と周知を行っている。	B	○衛生委員会での情報共有を密にし、教職員全体で超勤を減らす取組を継続し、超時間勤務にならないように声かけをしていく。 ○定時退勤日・定時退勤週を設定し、周知する。
	○働く上で効率のよい職場環境づくり	○職員室など整理が必要なおとももある。共有フォルダもデータが整理・整頓がいきとどいていない。	○快適な職場環境で業務が効率的にできる。	○校内安全点検の実施と破損箇所等の迅速な改善 ○教職員の整理・整頓意識の啓発 ○共有フォルダの整理 ○職場環境での感染予防対策の徹底	○６月に安全点検を実施し、危険箇所等の確認をした。 ○職員室は比較的整頓されている。 ○共有フォルダの一時保管場など整理途中である。 ○日常的に換気やアルコール消毒剤の設置など感染予防対策を行っている。	B	○後期も安全点検を実施する。 ○職員室等こまめに整理整頓を行い、ごみや古紙等は定期的に整理、処分する。 ○共有フォルダの整理を推進していく。 ○引き続き感染予防に努め、業務にあたる。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し

〔100%〕

〔80%程度〕

〔60%程度〕

〔40%程度〕

〔30%以下〕